

平成廿八年（丙申）十一月廿八日

隣國に金王朝在（あり）。東西冷戦終焉後早晚雨壞せむと云はれ續け四半世紀以上を經、尙も存續す。三代王正恩就權五年目を迎ふ。經濟發展及武力強化の同時併行を百年の大計として掲ぐるも、實際は後者を優先し、本年一月及九月に核實驗を斷行す。又、二月には長距離彈道彈を發射し、八月には我國排他的經濟水域に到達し得る中距離彈道彈を著弾せしむ。更に、九月には、改良型短距離彈道彈又は中距離彈道彈を我國排他的經濟水域に連續して複數著弾せしむ。何れも核彈頭搭載せざるも、我國への脅威格段と増す。近海に操業中の漁船不在は不幸中の幸なり。既に長年王朝の各種長射程砲の脅威下にある南方の同族共和國、三代王暗殺作戰を公言するも、王朝怯まず。寧ろ、三代王が懼るるは、隣國中共帝國畫策による、所謂平和的體制轉換なり。中共、三代王の兄にして先王の長男たる正男を香港澳門に匿ふ。正男を三代目繼承者に推舉せる先王の妹慶喜は既に政治的失腳の憂き目に遭ひ、その夫にして同じく正男を推舉せる張成澤も公開裁判の未死刑に處せらる。然れども、三代王の心穩やかならず。正男健在のみならず、その長男漢率（かんそつ）

（ハンソル）も又健在、而も聰明なるが故なり。漢率、現在佛蘭西（フランス）名門校巴里（パリ）政治學院にて政治的指導者たるべく勉學中と云々。漢率、數年前、同校入學前に芬蘭（フィンランド）の報道番組に登場す。假に金王朝の王とならば、先づ以て何を爲さむと欲するやとの問あり。漢率、流暢なる英語にて應へて曰く。先づ以て民の厚生に力盡さむと欲す、と。三代王、愈々心靜まらず。佛蘭西は歐州聯合國中唯一金王朝と外交關係を持たざれば、王朝の刺客も容易に活動する能はず。又、同國の警戒極めて厳しく、同族共和國の報道に曰く、三代王かつて漢率暗殺を企圖するも事成らずと。扱、回顧するに、正男かつて我國のデイズニーランドへ行かむと入國を試みるも、我國の入國管理當局に一時身柄拘束せらる。當時の我國の外相、即時強制出國を命ず。解放せざらましかば、我國にとり有用なる外交的切札、特に拉致問題に有力なるカードとなり得まし。

他方、中共、未だ平和的體制轉換を主導せず、米國の要請に應じて王朝に對する經濟金融制裁を強化する素振りを見するのみ。先代に比ぶれば遙に厄介なるも、唇亡寒齒の地政學的現實には抗し難し。三代目に對しても、依然として生かさず殺さずの方針を貫かざるを得ず。但し、米國新政權の對同盟政策に變化あらば、今後地政學的状况にもまた變化あり得べし。更に、南方の共和國、我國との祕密情報共有協定に漸く調印するも、同國の國內政治も混亂の様相を呈す。同國の次期政權反米を掲げ、王朝融和策へと轉じなば、今次の協定の無に歸するは必定ならむ。

金王朝、當面は南方の同族共和國の混亂と米國新政權の動向を眺めつつ、引續き武力強化に注力せむとぞ察せらるる。未だ試射せざる彈道彈及び爆發實驗せざる核爆彈の備蓄も數多ある故、今後更なる挑發行動に出づる危険もあり得べし。我國としては、彈道彈防衛體系強化は云ふに及ばず、自衛能力向上に益々努力すべし。（了）